

津平小学校 福祉実践教室

## 車いすの操作を体験

1月23日、津平小学校で福祉実践教室が行われました。参加したのは4～6年生の65人。車いすの操作、手話、視覚障害者の移動などを手伝うガイドヘルプの3つを体験しました。車いす体験では、実際に利用している講師が乗り方や曲がり方、段差の乗り越え方などを説明。その後、児童はグループになって、声を掛け合いながら車いすの操作や補助を実践しました。最後に数人の児童が代表で感想を発表。「おじいちゃんが車いすに乗っている。今日の経験をこれから生かしたい」などの言葉に、全員から拍手が送られていました。



おはなしスイーツ☆クッキング

## 絵本に出てくるお菓子を作ろう

2月9日、子育て・多世代交流プラザで「おはなしスイーツ☆クッキング 絵本の中に入ろうよ」が行われました。講座の初めに絵本を読み、その後、絵本に出てきたお菓子作りに挑戦。親子で協力しながら、サツマイモを丸い形に整えてオーブンで焼き、甘い香りがするスイートポテトを作りました。この講座に参加するのは今回で3回目という女の子は「スイートポテトは甘くておいしかった。絵本を読むのもお菓子作りも全部楽しかった」と話してくれました。



第62回剣の式剣道大会

## 名刀を前に熱戦が繰り広げられる



1月20日、平坂小学校で剣の式剣道大会が行われました。西尾藩主だった松平乗承公から明治37年に故石川錦一郎氏が受け取った刀を、同校に寄贈したことを記念して始まった剣道大会。戦後に剣の式剣道大会として再開され、今年で62回目を迎えます。市内外から多くの剣士が集結し、小・中学校男女と一般の部に合わせて67チームが出場。小学校男子では室場小学校、小学校女子では矢田小学校、中学校男子と同女子では平坂中学校、一般では平坂剣友会が優勝しました。

第54回一色マラソン

## オリンピックメダリストが登場



1月27日、一色町体育館周辺で第54回一色マラソンが開催されました。ハーフマラソンをはじめとする全24部門に過去最高となる4,517人がエントリー。参加したランナーは、一色マラソン名物の冷たい潮風を受けながら、それぞれの目標を達成しようと力走していました。オリンピック2大会連続メダリストのエリック・ワイナイナさんがゲストで参加。一緒に走ったり、ゴール地点でランナーをハイタッチで迎えたりと、平成最後の一色マラソンに花を添えていました。





### 西尾南部ベイエリア協議会事業発表会

## 一色地区の魅力発信「一色十色」いっしきといろ

西尾コンベンションホールで1月27日、西尾南部ベイエリア協議会が事業発表会を開催しました。同協議会は一色地区のにぎわいを創出して地域の活性化をと、漁協や商工会、観光関係の11団体と市で構成。「一色十色」をコンセプトに、特産品や新メニューの開発、体験プログラムの創造、観光案内人の育成、会員制交流サイト(SNS)による情報発信などを展開してきました。発表会では、ウナギやイチゴ、アカモクなどの新メニューの試食、観光コースの提案などが行われ、参加者は一色の魅力に確かな可能性を感じていたようでした。



### 平成31年西尾市成人式

## 新芽をテーマに、成長を誓う



平成31年西尾市成人式が1月13日に総合体育館で開かれ、華やかな振り袖や真新しいスーツに身を包んだ新成人が二十歳の門出を祝いました。成人を迎えたのは男性983人、女性857人の計1,840人。「新芽～Designing The Future～」をテーマに、新成人19人でつくる実行委員会が企画・運営。アトラクションでは代表者5人が「成人の主張」を行い、会場を沸かせていました。最後に緑色のジェット風船を全員が膨らませ、「おめでとー」の言葉に合わせて一斉に飛ばしました。

### 第50回は夢ウォーク

## 寒空の中、元気にウォーキング

平成22年4月に始まり、今回で50回目を迎えたはず夢ウォークが2月10日に開催されました。名鉄三河鳥羽駅を発着点とし、火祭り本番が迫る鳥羽神明社を經由する全長10.9キロメートルのコースに、市内外から200人を超える方が参加。寒空の中、思い思いのペースでコースを巡っていました。三河鳥羽駅では物産展「とば市」が開催され、ゴールする参加者をお出迎え。完歩した参加者は達成感で笑顔を見せながら、アサリ汁などに舌鼓を打ち、冷えた体を温めていました。



### 防災学習発表会

## 守ろう 支えよう 大好きな故郷



子育て・多世代交流プラザで1月12日、防災学習発表会が行われました。災害発生時の要となる防災リーダーの育成などを目的に今年度、一色中学校と一色南部小学校は地域とともに防災活動を展開してきました。年間を通じて防災について学んだ生徒と児童は、「いま一度、非常持ち出し袋を確認したい」「他の小学校と交流を深めたい」など、堂々と意見を発表。思いや行動を共有して地域の防災に生かそうと集まった約230人の地域住民は、子どもたちの意識が高まった姿に感心しながら、熱心に耳を傾けていました。